

第1回 恵那市地域福祉計画・恵那市地域福祉活動計画策定委員会 会議

日時:令和4年9月 30 日(金) 午後3時～5時

場所:恵那市防災センター

出席委員:坪井委員(委員長) 遠山委員(副委員長) 加藤委員(副委員長) 小木曾委員 小林委員
井戸委員 山田委員 西部委員 岩井委員 伊佐地委員 立尾委員 野戸委員 西尾委員
古山委員

欠席委員:三宅委員 石原委員 水野委員 矢頭委員 長谷川委員 板津委員

事務局: 恵那市社会福祉課 課長 沼田

恵那市社会福祉課 課長補佐 酒井

恵那市社会福祉課 課長補佐 荒川

恵那市社会福祉協議会 次長兼地域福祉課長 加藤

恵那市社会福祉協議会 地域福祉課主査 田口

(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 鈴木

(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 熊谷

内容: 開会

1 あいさつ

2 委員長・副委員長の選出

3 恵那市地域福祉計画・恵那市地域福祉活動計画策定委員会議題

(1) 恵那市地域福祉アンケート調査結果について

(2) 第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画骨子案について

(3) 今後の策定スケジュールについて

4 その他

閉会

1 あいさつ

事務局 (課長)	<p>ただいまより「第1回恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会」を開会する。私は恵那市社会福祉協議会社会福祉課課長の沼田である。</p> <p>はじめに資料を確認する。事前配布の「資料1」「資料2」「資料3」「計画概要版」「アンケート」、本日配布の「令和4年度地域福祉懇談会の実績報告について」「自殺対策計画概要版パンフレット」である。</p> <p>次に、本日の策定委員会は第1回目の開催となる。5年ごとに計画の見直しをしており、5年ぶりの開催ということで本来であれば市長が委嘱するところであるが、所用で欠席させていただいている。会議時間の短縮もあり、机上配布とさせていただきます。あわせて恵那市社会福祉協議会からも同様の委嘱状を机上配布させていただいているのでご了承をいただきたい。</p> <p>早速会議に入る。まず市役所の次長兼事務所長の古山からごあいさつ申し上げます。</p>
-------------	--

委員	<p>恵那市医療福祉部次長兼福祉事務所長の古山である。本日は第1回地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定委員会にお集まりいただき、また策定委員を引き受けてくださり、お礼を申し上げます。</p> <p>今回の計画は来年度、令和5年度から5年間の計画。現在の計画の中では、地域共生社会の実現に向け、地域の人や様々な関係機関がつながり、そして支え合う社会を目指して取り組んできた。次期計画では更に、重層的支援体制の構築、8050 問題や引き込み、社会的孤立、老老介護といった様々な問題、課題があるので、こういった視点でも取り組んで行きたいと考える。</p> <p>また今年度、恵那市は SDGs、未来計画都市ということで国から選定を受けた。そういった視点もまた新たに含めながら、この計画を策定していきたいと思うのでよろしく願います。</p> <p>現在、人口減少、少子高齢化が進んでおり、恵那市でもこの 10 年間に人口は約 6,500 人減少している。10 年前の平成 24 年度は 422 人が出生しているが、昨年度令和3年度は 210 人と約半分になっている。一方で高齢者の人口は約 1,600 人増えており、ますます少子高齢化が進んでいる状況である。今後、人口減少が進んでいく中、一番ポイントとなる担い手が不足してくると思う。その点では改めて皆さんとの協力体制、新体制、支え合うことが大事になる。そういった意味でこの計画は、地域共生社会の実現ということについてとても大切な計画だと思っている。是非、皆さんの忌憚のないご意見をいただきながら計画に反映していきたいと思う。よろしく願います。</p>
----	---

3 委員長・副委員長の選出

事務局 (課長)	議事に入る前に、本委員会の設置にあたり委員長の選任が必要となる。私どもの作成しているルールのもとで、委員長は委員からの互選、事務局で事前に推薦させていただくが、この点についてご意見はないか。
一同	《異議なし》
事務局 (課長)	委員長は、子ども子育て会議会長の坪井委員に願います。副委員長を2名、私どものルールのもとで委員長が指名することとなっている。
委員長	副委員長にはたんぼ福祉会の遠山委員、恵和会の加藤委員を指名する。
事務局 (課長)	本委員会には、この計画策定は完了する年度末まで任を担っていただく。それでは以降の議事運営は委員長に進行を願います。

4 恵那市地域福祉計画・恵那市地域福祉活動計画策定委員会議題

(1) 恵那市地域福祉アンケート調査結果について

委員長	<p>委員長にご指名いただいた坪井である。全国的に少子高齢化が進む中で、子どもから高齢者まで全ての恵那市民が安心して暮らすことができるように、この行政から提案された資料を基に、皆さんのご意見をいただきながら、本計画の内容が充実したものになることを期待しながら進めたいと思う。よろしく願います。</p> <p>では議題に入る。「(1) 恵那市地域福祉アンケート調査結果について」事務局より説明を願います。</p>
ジャパン総研	<p>資料に基づき説明。</p> <p>(1) 恵那市地域福祉アンケート調査結果について</p>

委員長	事務局より説明があった。ご意見やご質問はあるか。
委員	29 ページ「⑥災害時について」に避難行動が書いてある。実はこの避難行動だけでは不備で、避難所運営やそういった見守りができないと、避難所では震災関連死で人が死んでいくことが起こる可能性がある。熊本地震では、地震で亡くなる人が 50 名、地震直後ではなく避難所で亡くなった人が 200 名という数字があがっている。この 200 名もの尊い命が亡くなっていることを見ると、アンケートでは不足。もっと細かく取って欲しいと思う。
委員長	アンケートの中、棒グラフの「災害時の避難方法や場所の確認」なども含めて、もう少し細部に調べた詳しい結果が出てくると良い。それぞれの地域で防災訓練等をしているが一年に一回しかやらないので、そうではなく、何かあった時にどうしたらいいか、そういった計画も入れていくといいと思う。事務局いかがか。
事務局	確かにおっしゃる通りのご指摘である。今回のアンケート調査は、人権も含め約 100 問の項目を設けて配布、実施したが、災害時の設問は3項目しかなかった。是非、次回には改善し、本計画策定に当たって少し違う角度からの設問も加えたいと思う。
委員	27 ページ「④ボランティア活動」で、ただボランティアと言っても漠然としていると思う。もう少し種類別に分けて、例えば福祉活動のボランティアなのか、災害援助なのか、あまりないかもだが学校で読み聞かせをしているなど、もう少し細かくしたほうが良い。
事務局	実はボランティア活動をしたことがあると回答した方に対しては内容を聞いており、種類分けもできている。本日の資料には結果を出していないが、ボランティア経験者には福祉施設訪問や食事サービス、子育て、青少年活動、募金、近所の清掃活動、イベント、国際協力など 14 の選択肢を設けていて、その内訳は示すことができる。学校の選択肢はなかった。
委員長	27 ページの下、空白部分に全部でなくても掲載すると分かりやすいのではないか。他にご意見はないか。後に全体を通した質問をいただくことにする。では、次の議題「(2) 第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画骨子案について」に移る。

(2) 第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画骨子案について

事務局	資料に基づき説明。 (2) 第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画骨子案について
事務局	配布資料に基づき説明。 地域福祉懇談会の結果報告
委員長	ご意見やご質問等はないか。まず質問だけいただいて、後で一括して事務局から答弁をお願いします。
委員	3ページの下、恵那市は旧恵那市と恵那郡とあるが、未だにこれを書かなくてはいけないのか。これはやめよう。もう1つになっている。本市は、13 地域自治区に結んでもらえばいいと思う。 一番上、鑑の部分に SDGs が載ってないのは何故か。内閣から「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されているのにも関わらず入っていないのは非常に違和感がある。本当にやるのか。一行でもいいので書く、表現してもらいたい。 4ページに表がある。13 地区の地区防災、地区計画、福祉計画が存在すると思うので、下に矢印などでそれを明記されたほうが良い。

	<p>9ページ、SDGs。今は事業が中心であるが、学校との連携や教育は今後とても大事な部分なので、事業プラス教育として恵那市として取り組んでもらいたいと思う。それは持続可能になるし、幼年の福祉教育がやがては大人になるということもある。防災でいうと、昼間は家に高齢者しかいない、小学校も中学校も僕らの地域の担い手だと思うので、こういった取り組みも大事だと思う。例えば恵那東中学校での取り組みで、自分たちの受水槽から水を出したり、炊き出し等をやってくれていて、これが全市に続けばとても素晴らしいことになると思っている。学校との連携、それを入れるなら SDGs の目標「4、質の高い教育」も関連付けるべきなのではと思う。</p> <p>11 ページ「6 地域福祉計画推進圏域の設定」について、重層的というのはとても大事な部分で、地域の範囲の考え方とある。これは従来の自治区、自治会の枠組みを何も越えていないと思う。市内全域、本日は商工会議所もいらしているし、NPO も育ててきているので、その部分が必要なのではないか。そうなると市が目指している重層的、連携となると思うので、それに合わせて計画に書いてもらいたい。隣近所とあるが、個人というところも必要、ターゲットなのではと思った。</p> <p>39 ページ、「(4)指標の設定 基本目標3」に自力で 25.6%避難できる、できないとあり、これはこれで良いと思うが、避難所の運営者の教育も大事な部分ではないか。そういった人を育てていくということが今度の SDGs にもいかせるのではと思った。</p> <p>また、ここにある 40%は意味があるのか教えて欲しい。</p>
<p>委員</p>	<p>26 ページ、「恵那市福祉総合相談窓口」が設置され相談件数も増えてるのは本当にいいことだと思うが、これを見ると半数以上が設置された事を知らないとなっていて、でも7割以上は必要だと思っている。更に 28 ページでは、「暮らしやすいまちづくりのために必要なサービス」に総合相談窓口の充実がある。知らないという人がたくさんいるのに、必要だと言っている人が7割以上いる。もっと充実させて欲しいと言っているのは、知らないと言っている人が必要だと言っているのか、知っている人がもっと充実させて欲しいと言っているのか。どんな相談をしたいと思っていて、どんなことを充実させて欲しいと思っているのかという部分が見えない。</p> <p>更に第4次案を見ると、この相談支援体制の充実が、社会的な孤立を防ぎ必要な支援へつなぐしくみづくりというところだけに限定されている。先ほど、教育という部分を委員が言われた。私も参加させていただいた地域福祉懇談会で話し合われた主な意見について、社会福祉協議会さんの出された資料、やはりその中で子ども子育ての支援ということや家族関係の希薄化、また引きこもりということもあった。そういった教育と繋がる子育ての部分で、とても相談件数が多いと民生委員からも聞いたので、第4次案の限定した部分での相談支援体制の充実については少しどうかと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>地域共生社会、この「共生」はどういうイメージされているのか。この中に支え合う地域社会のこととあるが、それではなく、共生というのは、例えば生物でいうと棲み分けというのもひとつの共生である。そういう意味で言っているのか。それとももっとごちゃごちゃしている、隣近所の人が皆良く知って支え合うよというようなことをイメージしているのか。そのあたりがはっきり、これははっきりできないかもしれないが、何らかの方向性をつけたほうが良いのではという気がする。共生、共生といってるが、具体的なイメージが浮かばない。</p> <p>例えば、長島町などでは現在外国人がアパート等に結構いる。そういう人たちとどう共生していくか。言葉も通じないし、そういう場もない。そういう人がたくさんいる。学校でも</p>

	<p>たぶんいると思う。そういうところがこの社会で、10年前と違って非常に増えてきている。私の家の近くでも外国人の方が結構いる。挨拶はするが、その人たちは自治会も入っていないのでどういう人かはわからない。だからもし災害が起きた場合、どうやって世話をしたらいいのか。共生社会というのは、もう少しはっきり、どのようなものを目標にしているんだということを示していけたらいいかと思う。</p> <p>8ページの「重層的支援体制整備事業の種類」、五つぐらいあるが、これは誰がまとめるのか。これはいわゆるプラットホームなのか、それとも全然違う、例えば市役所がこれをまとめてやるのか。どこがこれを進めていくのか。社会福祉協議会か、あるいは福祉課がやるのか、もっと広範囲でやるのか。もう少しはっきりしたほうがいいのではと思う。</p>
委員	<p>学校の立場からの意見を申し上げる。私は進路担当をしている。ごく少数ではあるし、例えば障がい者というひとくくりの中になってしまうと表現がしづらいが、恵那市の中に重度支援心身障がいの方が結構おられる。学校を卒業した後、すぐに日中活動を過ごせる場というのはなかなかなくて、市を離れて土岐市や瑞浪市などに行ったりする。少数であるため、なかなかこういう場で問題視されるのは難しいことなのだろうとは思っているが、そういうところに耳を傾けられるような、先ほどの相談窓口もそうかもしれないが何かないかと感じている。</p>
委員	<p>重層的支援体制について先ほどもお話があったが、特に8050問題やダブルケア、最近ではヤングケアラーという問題がある。</p> <p>ちょうど今日、午前中に訪問に行ってきたお宅も完全に8050であった。年金だけで暮らしている母と息子だけで、息子は目に病気があって本当は手術が必要なのだが、金銭的なことや本人が嫌がったりと、お話を聞くといろいろな問題があったが、これは介護の話なのか、障がいなのか、それとも医療なのか。もう一件、相談があった事案では、恵那市在住 60代の方、80代後半の母の介護を自宅で行っている。息子が脳腫瘍の手術後に障害が出て、以前は自宅にいたがフラフラと出て行ってしまったりするようになった。家では親の介護もあるし、息子もみなければいけない。今は名古屋で治療していて、妻の実家の名古屋に住んでいる。今年中には恵那市に戻りたいという。そういった時に住民票をどうするか、障害者手帳などの手続きをどうしたらいいのか、親の介護をどうするか。息子が帰ってきた時に、障がいの生活介護なのか、まだ30代後半なので介護保険は使えないし、そういったことをどうしたらいいのかという話だった。</p> <p>そういった場合に、縦割りだとそれぞれの部署に行って相談しなければいけないが、恵那市は総合相談窓口という、東濃地域の他でやっているところもないであろう大変良い取り組みをされていると思う。横のつながり、行政だけではなくて、関係各所と連携しながらそういった事案をなるべく早急に解決していく道を探していくことができる。「この場合はここで」と総合的な知識を得ながら、連携しながらやるのが課題かと感じた。現場は実際、こういった課題があるので、その部分を少しずつ整備して行ければ考えている。</p>
委員	<p>民生委員の活動的な意見だが、特にこういう計画の中で問題点の言える人はいいと思うが、問題を提起できない隠れた人、そういう方をどう救っていくかということが計画の中にあってもいいと思った。ものが言えない人たち側に立った計画があっても良いと思う。</p>
委員長	<p>黙っていると何もわからないが、やはり心の中で思っている人がたくさんいるので、それをどう引き出すか。そういう計画があるといいというご意見だった。</p>
委員	<p>商工会議所としての立場で話を伺いながら思ったのは、地域の中には住民もいるが事</p>

	<p>業所、会社もやっぱり存在している。会社のある地区に代表者が住んでいるというパターンもあるが、もちろん住んでいないことも結構ある。</p> <p>以前、私どもの商工会議所の各地区で、事業所の方たちの意見を聞く移動商工会議所という事業をやっていた。そこで事業所の代表者から、昨年大雨でサイレンがあった時に、情報がなかなか入りにくく、避難したらいいのか、避難をどこにしたらいいのか、そういうことを少し迷った場面があったという意見があった。その代表者は、例えば地区の中で防災訓練などに一緒に混ぜてもらうことができれば、会社として地域に協力させてもらえることがあるかもしれないし、地域の方から何か情報を得ることがあるかもしれないということを言っていたので、ここで意見として述べさせていただく。</p>
委員	<p>疑問に思ったのが、このアンケート調査は過去3回分の比較があるが、回収率が 50% を満たしていない。それを基にして進めているのかという疑問がある。もちろん提出しない、回答しない側にも問題があると思う。また、ある程度の調査期間の中で行うというのはその通りだとは思いますが、やはり過半数以上の声を聞いたうえで進めていったほうがいいのではと感じた。</p>
委員	<p>先ほど、相談件数が1年間に 1,427 件と言われたが、その 1,427 件はどのように解決に向けて動いているのかと思った。たんぼぼの人もお世話になったと思うが、結果的にはもう施設へ泊ってもらうしか解決方法がない。解決に向けてどう考えていくかもこれからの課題だと思う。</p> <p>先日の大雨の際、放送で避難するよういわれた。私は岩村に住んでいて、避難場所は岩村コミュニティセンターであったが、家から車で 5 分位かかるし、車のない人はどうやって行くのだろう。災害地図を見ると、自分たちの住んでいる周りも結構赤いところがたくさんある。自力で避難できない人たち、特に田舎は老人や一人暮らしの人も多いし、今はコロナでほとんど組の会合とかもない中で、災害が起きた時どうしたらいいんだろう、コミュニティセンターまでどうやっていくんだろうということを家族の中で話した。</p>
委員	<p>ボリュームある内容で、なかなか全ては見えていないが、皆さんのいろいろなご意見を聞いて、ああそうかと思っている。私どもも高齢者施設なのでそっちをメインでいえばわかるが、それ以外の障がいや引きこもり、もしかすると虐待とか総合的な施策が必要になるのかなと思っている。</p> <p>ここには載っていなかったが、自殺なども目標にあげるとなると、恵那市で何人ぐらい、支援が必要な人がいるのか把握できるのか。また載っていないが、鬱はどんな事業所でも数が増えていっているように見受けられる。うちの施設でもないわけではない。鬱の対応みたいなものも、こういう総合計画の中に入れられるといいと、個人的に思っている。</p>
委員	<p>事務局の一員であるため意見を公に発表するのは控えるが、特に今回は新しい計画で、視点としては先ほど課長からあったように、重層的支援体制と SDGs の折り込み、その辺りがポイントになると思う。この辺り、特に重層的支援は今後の体制の主力、社会福祉施策の主力になると思う。それらを生かした計画ができればいいと思う。</p>
事務局	<p>ご質問やご提案をたくさんいただき、少しだけ事務局側の代表としてお答えする。</p> <p>まず、いろいろな言葉の文面等についてご指摘いただいた。小中学生が担い手になっているのではということ、また共生についてもご質問があった。地域共生社会だという話をさせてもらったこの「共生」という意味は、辞書で確認したが、おっしゃるように生物学的な複数の種が集まって暮らせる共生と、ここでいうのは共に生きる、共に生活をする、</p>

	<p>ずっと住んでいたところで生涯にわたって共に生き合う、そういったイメージを持っていただきたいと思う。今までは支え手側と支えられる側を分けて考えられていた。小中学生の話がありましたが、昔は小中学生のイメージは支えられる側でした。それが今では支える側になったという話だった。国の指針を読むと、支える・支えられるを分けるのではなく、誰もが役割を持って活躍できる、そういった地域共生社会の実現が求められていると言われている。そういうイメージである。</p> <p>外国人の話もいただいた。高齢者、障がいを持った方もいる。そういった方が単に支えられるだけでなく、地域の中で何かの役割を持ったり、表に立って自己表現したりできるとか、そういった社会づくり、これは恐らく SDGs という国連の目標にも繋がることかと思う。そういった意識を持ってこの中に組み込んでいきたいと思う。</p> <p>相談支援の充実は一部に限った話ではないとのご意見もいただいた。改めて少し組み立てを事務局で考えたいと思う。</p> <p>重症心身障がいのお子さんの話もいただいた。特殊支援学校にはそういった方々が恵那市以外からも通っていらっしゃる。実は最近、相談窓口が特殊支援学校の学校の先生と、さまざまな困りごとを共有できないかという取り組みをこれから始めようとしている。いわれた通り、少数かもしれないがそこも含めてこの計画の中では考えていく。</p> <p>一切ものを言えない、ここの中で拾い上げにくい声などもしっかり拾える環境。あとは多く災害の話もいただいた。この計画は隣近所自治会の枠組みだけじゃないと、企業が避難という場面で参加ができないかというご意見もいただいた。おっしゃるように SDGs の中でも様々なステークホルダーとか担い手という書き方がしてある。これから持続可能な地域の力を強めていくには、そこに住んでいる人やその自治体のメンバーだけではなく、企業や学校、例えばもっという恵那市の外に住んでいる人、例えば、ふるさと納税などは同じ考えで、恵那市には住んでいないが寄付で応援できるとか、そういったことも含めて地域づくりは進めないといけない。いわれたような広い範囲での地域福祉づくり、改めて参りたい。</p> <p>ご指摘のあった40%という数字は、これがしっかりした目標数値かどうか再検証する。</p> <p>最後に、少し個人的な意見を申し上げる。近江商人の考え方はご存じか。「三方よし」という考え方が、売り手もよし、買い手もよし、要は売るほうも儲かる、買うほうも満足して、結果社会貢献に繋がるというのが近江商人の考え方である。これからは、地域福祉懇談会の中でも課題となっていた見守り、移動手段などが必要で、どんどん大変な環境になる中で、実は今、地域の中の担い手が不足している。草刈り、買い物支援、岩村コミュニティセンターにどうやって避難するか、そういった支え合い活動を本当にこれからずっと続けていけるのかという課題が、懇談会の中でたくさん意見が出た。それを解決しようと思うと、今いったように「三方よし」のような、1対1の関係だけではなく、1対3とか4対5とか、いろいろな人、いろいろな資源が関わらないと解決していかないのではと常に思っている。今いただいた意見をなんとかこの計画の中にうまく表現できるように、事務局、ジャパン総研さん、社会福祉協議会さんも含めて考えて参りたい。</p>
委員長	それでは議題を終了し、進行を事務局に返す。

(3) 今後の策定スケジュールについて

事務局	スケジュールについて説明する。資料3、去年の市民アンケートからの計画が載っている
-----	--

	<p>る。9月現在、第1回委員会を開催し、骨子案を示した。今日いただいた意見を反映させながら素案を作成し、12月から来年1月中旬ぐらいまでに第2回委員会を開催、2月にパブリックコメント実施。3月に原案を作成、第3回委員会でこの計画のご承認をいただきたいと考えている。</p>
--	---

5 その他

事務局	<p>実は本日のこの策定委員会は一般公開をしていない。ただ、恵那市計画の策定に関してはできる限り公開をしていくというのが現在の市の方針である。本委員会の予定ではあと2、3回で終了予定であるが、参加委員の承諾をいただいて、今後の会議についてはいわゆる一般傍聴を5席程度用意して公開とさせていただいてよろしいか。</p>
委員	<p>《異議なし》</p>
事務局	<p>では、次回会議より一般公開とさせていただく。</p>
事務局	<p>恵那市社会福祉協議会からの事務連絡。交通費の費用弁償、対象になる委員に交通費の支給をさせていただく。お手元の用紙に記入し、2回目の委員会でも構わないので社会福祉協議会の事務局にご提出いただきたい。</p>
事務局	<p>その他について以上である。会議に際して何かあるか。 本日の会議は3時から5時までの2時間と長時間になったが、多数のご意見をいただいた。しっかり反映させていくように準備し、次回またよろしく願います。以上で「第1回恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会」を閉会する。</p>